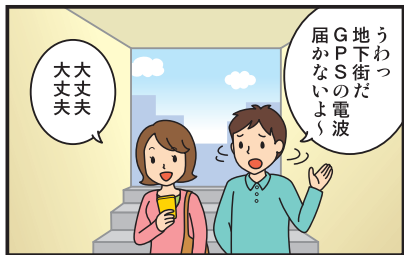
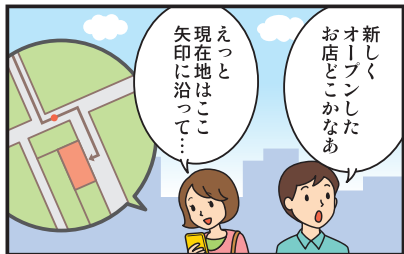


### GPSが届かなくても道案内



「位置」を知りたい  
昔からある「ソリューション」解決策」で  
す。物をなくした時、待ち合わせ場所  
でGPSという解決策を得ました。飛  
行機や船だけでなく、マイカーも、スマー  
トフォンも、みんなはるか宇宙から来る  
GPSの計測機能を備えています。地  
球上のどこにいても緯度と経度で即  
時にわかり、そして時間を追って記録さ  
れます。

ところが、この便利なGPSも建物の  
中や地下では使うことができません。買

「位置」を知りたい  
「位置」を知ることとはとても身近で、  
昔からある「ソリューション」解決策」で  
す。物をなくした時、待ち合わせ場所  
でGPSという解決策を得ました。飛  
行機や船だけでなく、マイカーも、スマー  
トフォンも、みんなはるか宇宙から来る  
GPSの計測機能を備えています。地  
球上のどこにいても緯度と経度で即  
時にわかり、そして時間を追って記録さ  
れます。

ところが、この便利なGPSも建物の  
中や地下では使うことができません。買

「位置」を知りたい  
「位置」を知ることとはとても身近で、  
昔からある「ソリューション」解決策」で  
す。物をなくした時、待ち合わせ場所  
でGPSという解決策を得ました。飛  
行機や船だけでなく、マイカーも、スマー  
トフォンも、みんなはるか宇宙から来る  
GPSの計測機能を備えています。地  
球上のどこにいても緯度と経度で即  
時にわかり、そして時間を追って記録さ  
れます。

ところが、この便利なGPSも建物の  
中や地下では使うことができません。買

### 「位置」を知りたい

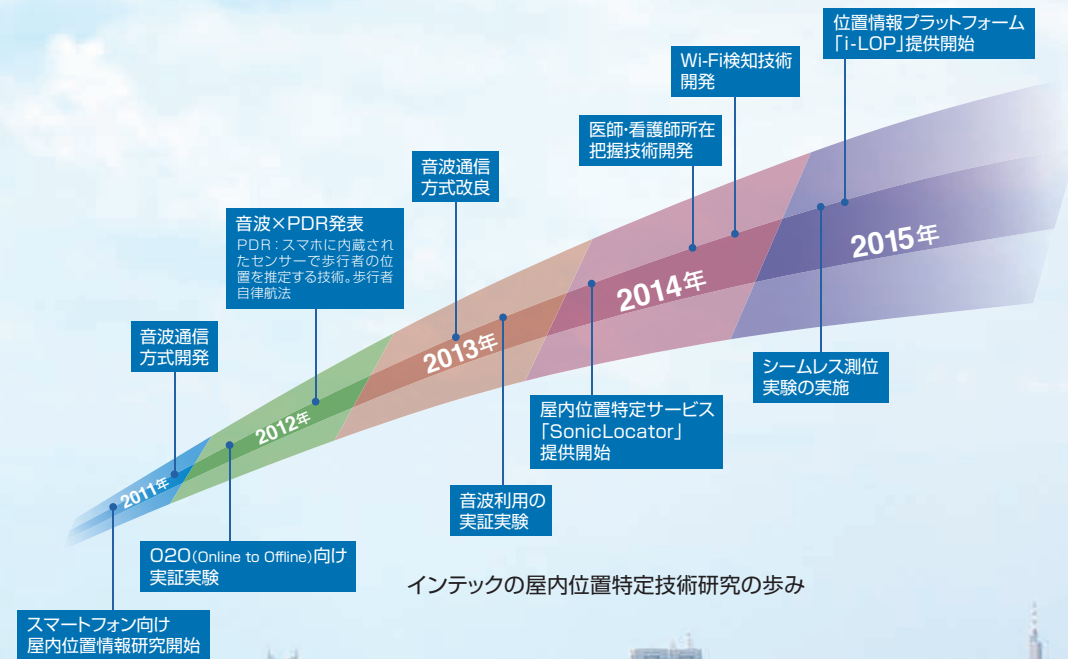
### 屋内でも地下でも継ぎ目なく

### 位置情報プラットフォーム i-LOP(アイロップ)

## 位置に新しい価値を与えるICT社会へ

# どこにいるの？ が 導く未来

モノや人の位置が簡単にわかったらどんなに便利だろう。  
人々のそんな願いが今、実現しつつあります。  
GPSに加え、屋内外の測位技術の発展、スマートフォンの普及などによって  
複雑な都市空間でもモノや人の位置を正確に測定し  
利用することができるようになってきました。



インテックの屋内位置特定技術研究の歩み

また、通信用のWi-Fi電波を利用し  
て、Wi-Fi機器の近くのスマートフォン  
を特定しクーポンを送ったりアプリを立  
ち上げたりする技術も開発しました。  
プライバシーに配慮し、位置を把握され  
る人のプライバシー情報を使わずに特  
定できる独自の検知手法を用います。

## 地図&ビッグデータで 可能性を広げる

株式会社インテック  
専務取締役  
石井 貞行



地図は位置を伝えるための道具である。測量技術がない時代の古地図、ジャングルや砂漠での手書きの絵など、古くから地図は用途に合わせて様々な表現されてきた。そして現在、スマートフォンの普及により、どこで(地図/位置)、だれが(利用者)、何を買ったか(行動)などの情報を蓄積・活用し、よりきめ細かいサービスを利用者に提供する取り組みが注目されている。「どこ」という情報の活用が新たな価値を生み出すようになったのだ。

一方、ビッグデータの時代といえる今日、デジタル空間のデータは拡大を続けている。過去の自然災害や遺跡などの学術データが公開され、人口統計などのマクロデータ、各種センサーから送られてくる気象・交通情報などもオープンデータとして提供されるようになった。FacebookやYouTubeには、生活に密着した「今」を表す情報が次々にアップロードされる。これら刻々と蓄積されるデータの量・種類には驚かされる。しかし、多くは目的別に蓄積され互いに関連していない。もし、これらの情報を地図と融合させて使えたらどうだろう。

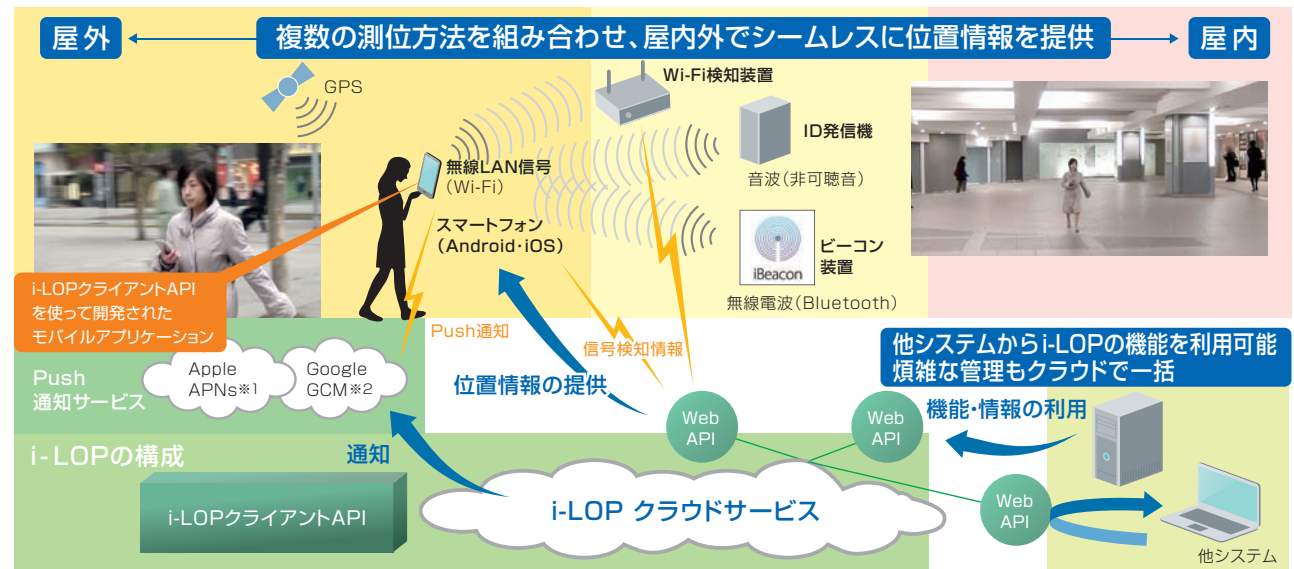
例えば「まちづくり」。安心・安全で便利なまちづくりに、また、観

光客への魅力発信に利用できないだろうか。初めての街で、スマートフォンに位置を表示し周辺の風景が確認できると確かに便利だ。これに、オープンデータとして提供された渋滞情報や学校、病院などの情報を組み合わせるとより便利になるに違いない。また、遺跡などの学術データと位置情報を組み合わせて、観光客に情報を提供するというのはどうだろう。今立っている場所の江戸時代の地図や風景をスマートフォンに表示するなど新たな可能性が広がるのではないだろうか。

地域の地形や情報を一番知るのにはそこに住む人である。インテックは住民の視点でITを活用し、行政と市民が共同で地域を豊かにしていく社会の実現に貢献したいと考えている。位置情報と地域のオープンデータ基盤を利用して、その地域ならではのサービスやコンテンツの開発を若いエンジニアが競う。今後、そんな場を設けることも検討したい。そこに、地方活性化の解決策の一つがあると思う。

インテックは今年、位置情報に関するサービスを統合的に行う「i-LOP」、ビッグデータの収集、管理、分析サービスを行う「ユビキタスプラットフォーム」の提供を開始した。これらは様々な情報を有機的に結び、新たな価値を生み出すために欠かせないIT基盤である。より信頼されるIT基盤を社会に提供していくことが、ITのプロ、社会システム企業としてのインテックの責任であると強く感じている。

### 位置情報プラットフォーム「i-LOP (アイロップ)」



## 位置に新しい価値を与える ICT社会へ

今年1月、インテックは国土交通省の実証実験に参加し、i-LOPを利用して屋外でも屋内でも地下でも位置測位が自然に境目なく行われることを確認しました。(下図)

- インテックは今後、工場や病院での、勤務する人の位置確認、作業支援
  - 学校での生徒位置に応じた確認、情報提供、周知
  - 現場作業を行う業種での存在確認、作業支援
  - 観光地、駅、大型船内などでの位置案内やアミューズメント
  - 小売業での付加サービスやマーケティングツール
- などの分野での利用を想定し、i-LOPをより充実した基盤へと成長させていきます。また、インターネットを介して膨大なデータを収集・蓄積し、そこから新しい知見を見いだすためのインテックの「ユビキタスプラットフォーム」との連携も予定しています。
- 「位置」を知り、活用し、新たな価値を与える技術を研究開発、提供することによって、インテックはより豊かで便利な暮らしの実現に貢献してまいります。

### 東京駅周辺高精度測位社会プロジェクト検討会の実証実験に参加

1月、国土交通省の「東京駅周辺高精度測位社会プロジェクト検討会」が実施する実証実験に参加しました。国土交通省は東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年を見据えて「高精度シームレス測位社会」を目指しています。インテックは、GPS、非可聴音、BLE (Bluetooth Low Energy)の3つの測位手法をつなぎ、屋外からガラス張りの建物内へ、建物内1階から地下へ移動しても、自然に境目なくスマートフォンの地図が切り替わることを確認しました。

